

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.164

2019. 6. 3  
発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 実務者会議  
連絡先 県生協連・県消団連  
TEL 019-684-2225  
FAX 019-684-2227

## 5・3憲法集会inいわて 憲法を守り・いかそう！

安倍9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会は、5月3日に岩手教育会館で400人の参加で憲法集会を開催しました。まず、主催者を代表して岩手県生協連加藤善正顧問が、「社会に合わせて憲法を変えるのではなく、憲法の理想をめざして社会を変える運動を強めよう」とあいさつ。続いて、各政党から激励のスピーチをいただきました。達増拓也岩手県知事、主演了滝沢市長からもメッセージをいただき紹介。その後、「へいわといのち、人権が大事！3000万署名を達成させよう！」のスローガンのもと、弁護士宇都宮健児さんに「憲法の理想に、現実を近づけるために」をテーマに講演いただきました。



宇都宮氏は、「今度の参議院選挙は改憲を阻止する上で極めて重要な闘いとなる。社会保障の充実こそ必要なのに、安倍政権は財政難を理由に縮小するばかりか、防衛費を拡大するなど、医療・年金・介護など社会保障費をさらに削減を進め、憲法25条の空洞化を図っている」と指摘。「憲法は基本的人権を保障する最高法規。人権侵害の最大のものは戦争。それをもたらす恐れのある改憲は阻止しよう」と呼びかけました。



集会後のピースパレードには宇都宮さんも参加いただき、参加者たちとともにアピール。「憲法大好き！貧困反対！改憲やめて！」「憲法を守ろう」など、思い思いのプラカードを掲げて盛岡市内を行進しました。



### ≪5月3日は県内各地で集会や街頭宣伝・署名活動が行われました！≫

#### 「5・3憲法記念日のつどい釜石地区集会」開催

釜石9条の会などが参加し実行委員会形式で開催。近隣市町村から26人が参加しました。DVD「憲法と自衛隊」鑑賞や、釜石・戦争を記録する会発刊の戦争体験集「私の八月十五日」の一部の朗読を実施。防衛大に対する人権侵害裁判の動向の報告もありました。フリートークでは、「家庭で戦争や憲法について話ができる環境をつくっていくべき」「ひとり一人が安倍政治に関心を持ち行動を起こすことが大事」などの意見が出され、安倍9条改憲を阻止するために改憲反対運動のさらなる強化を誓い合いました。

八幡平市9条の会では、いわて生協ベルフ八幡平で街頭署名行動を実施。7名で18筆を集めました。⇒



広めよう！「安倍9条改憲NO！憲法をいかす全国統一署名」  
岩手の3,000万署名数は17万5千筆 (5月末現在)

署名ハガキは、350通・1,000筆超の返信がありました

※手元に署名がある場合は、6月7日までに岩手県生協連までお送りください。

# —第9回九条の会東北交流会— 今年も4/23福島で開催



毎年東北各県で持ち回り開催している「九条の会東北交流会」。今年は福島で112人が参加し、行われました。9条改憲NOの運動推進や今後の奮起にいかそうと、全国九条の会事務局長小森陽一氏の講演のほか、東北各県の取り組み交流（岩手からの報告は、平和憲法・9条を守る花巻市民の会の「高校生向けパンフ独自作成・市内6校への配布」を報告⇒）を実施しました。



## <参加者からひとこと>

◇小森さんは講演で、「今の自衛隊はこれまでと違って集団的自衛権や安保法制を背負っている。その自衛隊を9条に書き加えることの怖さを国民は見抜かねばいけない」と強調していました。みんなで9条改憲に反対し、自衛隊員の命を守りましょう。

（平和憲法・9条を守る都南の会 実川敦子）

◇9条のもとで戦争は起きなかった。私たちの9条の会の成り立ちやがんばり続けた力の大きさは計り知れないと思う。私たちは自衛隊を書き加えるだけというまやかしに惑わされることなく、しっかり市民と野党が結束して、今一歩前にひとり1人が勇気を持って行動しなければ。改憲ではなく政治を変えよう！今が正念場です。（平和憲法・9条を守る都南の会 伊藤稲子）

## コラム — 「だから「決裂（物別れ）」した、ハノイでの米朝首脳会談 —

去る2月28日ベトナム・ハノイでの「朝鮮半島の非核化」に関する米朝首脳会談が、国際社会の期待に反して「決裂（物別れ）」に終わりました。一縷の望みは米朝双方とも次回会談の可能性を示唆していたことであります。「望ましい外交交渉」と言っても紆余曲折のあることは重々承知されておるところ。

兆候！？予感させるものがありました。会談日が近づくにつれてトランプ米大統領が「急がない！」との言動をしていたからであります。コラム子は、何か「サプライズ」があるかも知れないと思い始めておりました。起こったことは「決裂（物別れ）」でした。「やっぱり！」と思いました。「サプライズ（落胆）」には感じませんでした。

それにしても、トランプ米大統領のその場での北朝鮮・金委員長あてに提出した文書（要求書）は、呆れるものではなかったのでしょうか。それは「完全な非核化と北朝鮮制裁の全面解除を内容とする『大きな取引』を内容とするもの」だったとか。それでは北朝鮮側が反発するのは当然だったのではないのでしょうか。シンガポールでの敵対する米朝の初の「首脳会談」では、「朝鮮半島の非核化」の意思が確認され合った意義が国際社会から歓迎され、「段階を踏んでの非核化」が進展することが期待されました。

ボクシングに例えれば、トランプ米大統領はそのジャブにしては余りにも「激烈」だったのではないのでしょうか。同時に、陶器店の店先に引っ張り込まれた猛牛に例えられている大統領補佐官の「平和の外交プロセス」に対する「不適格性」も、一部から指摘されております。

トランプ米大統領は、「朝鮮半島の非核化」に向けて「平和の外交プロセス」を望むのであれば、ブラックジョークみたいな「激烈なジャブ（本パンチ）」を止めることを望まずにはられません。（T）

**6月の署名活動 10日(月)12:15~12:45 盛岡市大通・野村證券前**

3,000万署名の街宣署名行動を行います。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。